

くらしの中で無理なく、一緒に、楽しく 生活者の「エコ意識」と「行動」

生活者研究センター
ライフスタイル研究室長 井上 紀子

2000年以降、地球規模の環境問題から、日本でもLOHASブームやクールビズなどが話題となり、関心が高まりました。また、2008年に起こったリーマンショック後は、生活防衛のための「節約」が、結果として「環境に良い暮らし方」につながり、2011年の東日本大震災以降は、「節電・節水」意識の高まりもあって、現在は身近な暮らしに直結したエコが実践されるようになってきています。

生活者研究センターでは、2008年より生活者のエコに対する意識を調査しています。それによれば、関心は依然として高いものの、近年、やや低下傾向にあることがわかりました。そうした傾向の中でも、既婚女性を中心に、暮らしにエコを上手に取り入れて実践し、継続している人たちの姿が明らかになりました。

エコと日々の暮らしのつながりを考え、無理なく継続し実践していくことは、今後ますます重要となってきます。本レポートでは、これまでの調査で見えてきた、生活者のエコ意識や行動について報告します。

トピックス

- エコ意識も行動も、既婚女性が高めだが、近年やや低下傾向
- 実践派は、エコが「自分ごと」。できることからコツコツと!
- 消極派は、エコは「面倒というおもい」から、なんとなく取り組めない
- 「エコ」を続けるコツは、「無理なく」「一緒に」「楽しく」

【調査概要】

「生活者ベンチマーク調査」

調査期間:2008年・2010年・2011年・2012年・2014年(いずれも9月)
調査方法:WEB調査(20~59歳)、郵送調査(60~69歳)
調査対象:首都圏30km圏在住男女
回答者数:既婚女性(20~60代)のべ3,952人 既婚男性(20~60代)のべ3,373人
未婚女性(20~30代)のべ1,191人 未婚男性(20~30代)のべ1,285人

「生活者の環境意識と行動実態」

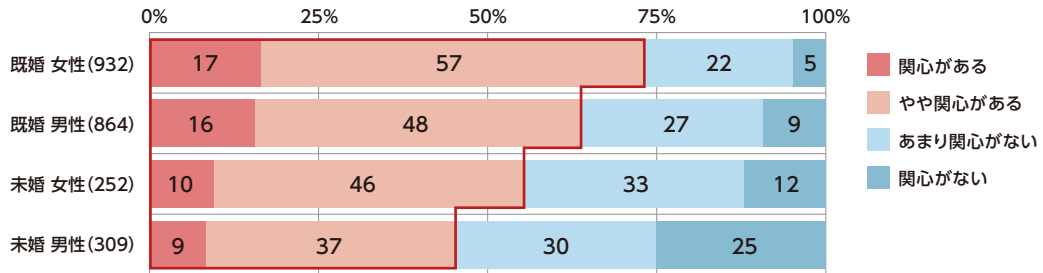
調査期間:2013年6月・7月・11月
調査方法:家庭訪問または会場インタビュー
対象者数:首都圏在住20~60代男女22人

「『くらしの研究』読者アンケート」

調査期間:2014年6月
調査方法:インターネット調査
調査対象:『くらしの研究』読者
回答者数:19,483人

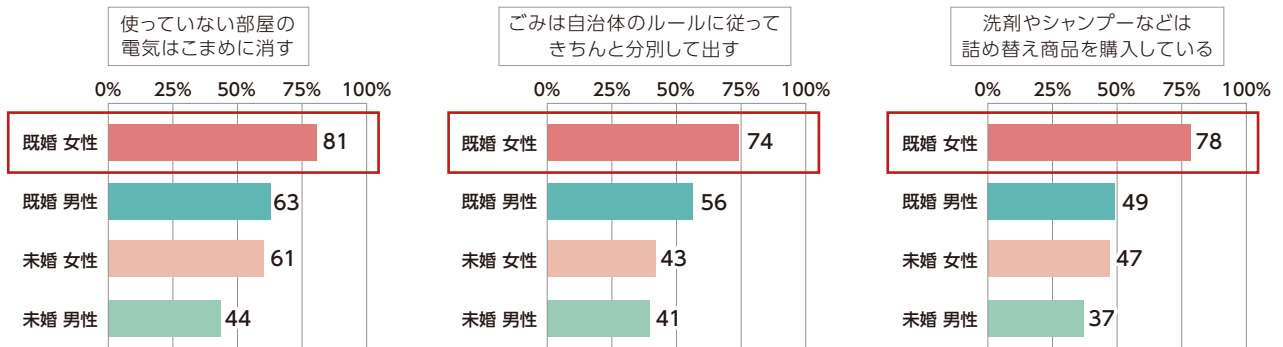
エコ意識も行動も、既婚女性が高めだが、近年やや低下傾向

エコに関心のある人は、既婚女性では74%にのぼり、未婚者より既婚者、男性より女性の方が高い傾向にありました(図1)。節電、ごみの分別、洗剤やシャンプーなどの詰め替え品購入率も既婚女性が高いことがわかりました(図2)。



20～60代男女 2,357人(花王調べ)

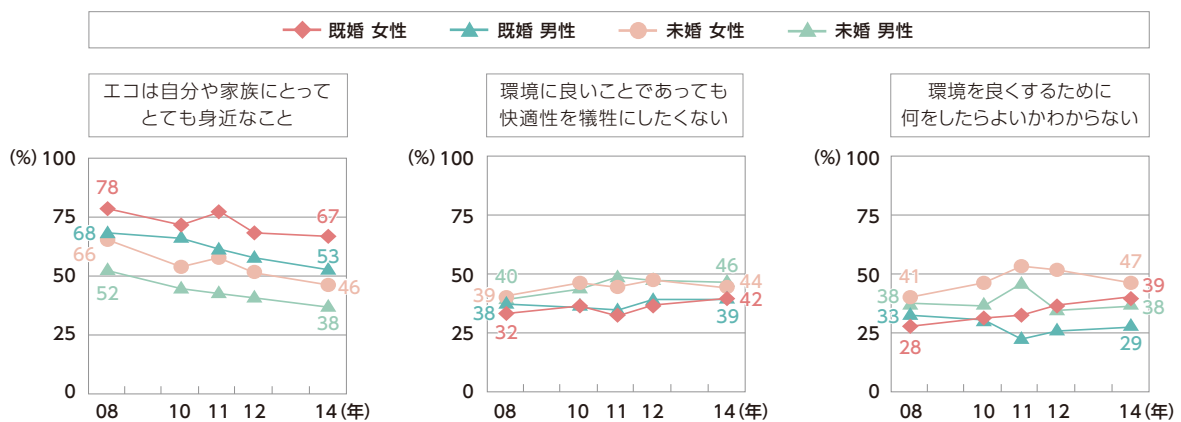
(図1) エコへの関心度 (2014年)



20～60代男女 2,357人(花王調べ)

(図2) 普段の生活で実施していること (2014年)

「エコは自分や家族にとって身近なこと」という意識は、既婚女性では約7割と高いですが、近年は全体的にやや低下傾向にあります。一方、「環境に良いことであっても快適性を犠牲にしたくない」「何をしたら良いかわからない」という「おもい」は増えています(図3)。



*「あてはまる」「ややあてはまる」人の割合

20～60代男女 2,357人(花王調べ)

(図3) 環境意識の変化

エコに関する意識が高く、身近なことと捉え行動している実践派の既婚女性と、なかなかエコに取り組めない消極派の男性や未婚女性に、それぞれの「おもい」や理由をヒアリングしました。

実践派は、エコが「自分ごと」。 できることからコツコツと!

CASE 1



子ども世代の将来を考えて、今できることをやりたい!

有職主婦(33歳) 家族構成:夫、息子

エコへのおもい

- 子どもの頃に見た田舎の海で、海岸にごみがたまっていた記憶は、忘れられない。
- 以前、断水になったときに、水がどれだけ大切か実感した。
- 両親は、「モノがあることがありがたい」というモノを捨てない派。
- 子どもの将来の環境のために、今自分ができることは身のまわりからコツコツと。

エコのためにやっていること

- すすぎ1回の洗剤は、普段使うだけで節水・節電になるので気に入る。
- 保育園用の子供服のお下がりをお願いするのはうれしい。古くなったら切って食器の油の拭き取りに活用している。
- リサイクルショップやフリーマーケットめぐりは楽しいので、本やCD、子供服を出したり、購入したりしている。
- 牛乳パックやトレイはスーパーの回収ボックスへ。
- 無農薬や有機栽培の野菜は高くても続かないけど、地元農家の野菜や国産食材はおいしいから購入。
- 布オムツは試してみたけれど、大変で続かなかった。



CASE 2



節約をがんばって、エコしてる!

専業主婦(42歳) 家族構成:夫、息子、娘(2人)

エコへのおもい

- 10年間、家計簿をつけて日々の節約をがんばってきた。
- エコのためにコンセントを抜くのは面倒だと思ったけど、節電で光熱費を抑えられると思っただけで続けられる。

エコのためにやっていること

- 家計簿、家電のコンセントを抜く、風呂の残り湯を使う等々、家を購入したときから節約を実行!
- 気になる電気・ガス・水道代の値上がり。最新のエコ仕様のエアコンや冷蔵庫への買い換え検討中。
- 子どもたちだけでお風呂に入るようになって、出しっぱなしにしがちなので、節水できるシャワーヘッドも検討。



CASE 3



エコなくらしは、おしゃれでステキ!

専業主婦(30歳) 家族構成:夫、息子

エコへのおもい

- エコな暮らしっておしゃれ。雑誌で有名人が実践しているとあこがれる。
- 自分でできるエコはやりたいけれど、家族にがまんはさせたくない。

エコのためにやっていること

- 自然派の洗剤はおしゃれなイメージなので、自分も愛用。
- 自分ひとりの時間にエアコンはつけない。でも、子どもが帰ってきたら、がまんはかわいそうなのでつける。
- 食洗機も節水になると聞いたので、なるべく使うようにしている。



実践派の既婚女性は、子どもの将来の環境も視野に入れながら、日々の生活の中で「自分ごと」としてエコを実践しています。けれども、自分のライフスタイルや価値観に合わないものは、継続されていませんでした。

消極派は、エコは「面倒というおもしろい」から、なんとなく取り組めない



“エコロジー”って言われると、でかいことを考えてしまう。
家のことは全て奥さん任せ。家で今さら何をすればいいんだよ、と思う。

男性(45歳) 家族構成:妻、息子(2人)

ストレスのない生活をしたい。フリマは楽しいし小銭も入るから、ときどき友達と一緒に出店するけど、牛乳パックやトレイの回収はストレスになるからできない。



有職主婦(41歳) 家族構成:夫



誰も見てないしちょっとくらいはいいかと思って、油を排水口に流しちゃう。でも、彼氏が来るときはちゃんと新聞で拭き取るけど。

女性(32歳) ひとり暮らし

消極派は、エコを身近なこととして捉えられず、なんとなく「面倒」「大変そう」「がまんがいる」というイメージから、「実践できない」と思っていました。

しかし、さらに掘り下げて話を伺うと、「子どもと一緒に海釣りに行ったときはごみ拾いをしている」「家族一緒にお風呂に入れば修学旅行のノリで楽しいし、節水にもなる」など、実際には、意識せずに実践している様子が見られ、家族や友人と一緒になら、面倒な気分を越えて実践できるエコがあることもわかりました。

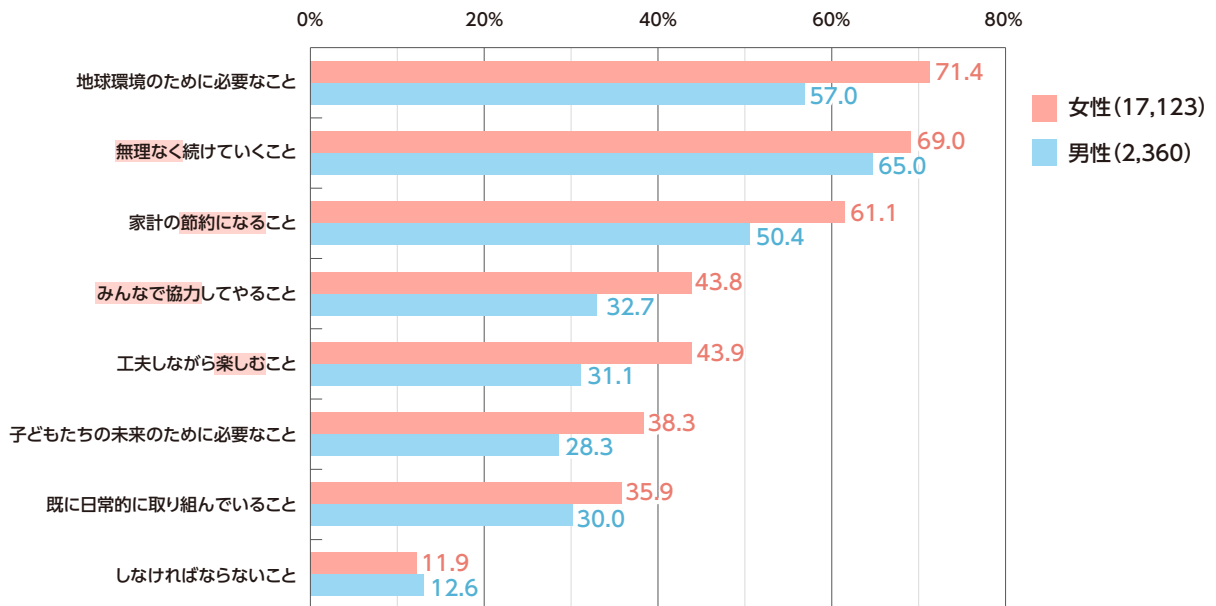
インタビューから、実践派も消極派も、エコを続けていくには「無理なく」「一緒に(協力して)」「楽しく」というキーワードが浮かび上がってきました。



家族一緒なら楽しく続けられる

「エコ」を続けるコツは、 「無理なく」「一緒に」「楽しく」

花王『くらしの研究』の読者アンケートによると「エコ」はどのようなことか?という質問に対し、女性の7割が「エコ」は「地球環境のために必要なこと」と回答し、男性も女性も6割以上が「無理なく続けていくこと」だと捉えていました。また、エコが節約につながっていることはもちろんですが、女性の4割以上は「みんなで協力してやること」「工夫しながら楽しむこと」と考えていました(図4)。



『くらしの研究』読者 19,483人(花王調べ)
(複数回答)

(図4)あなたにとって「エコ」とはどのようなことですか?

【無理なく楽しくできるエコをはじめましょう】

エコは、自分のライフスタイルや価値観に合わせて、無理なく続けていくもの。ちょっとした工夫でラクしてトクする、楽しくできる身近なエコアイデアを試してみませんか? 詳しくは、こちらを参考にしてください。

応援!くらしのキレイ
環境カウンセラー和田由貴さんに聞く
今日からできる「エコ×節約」7つの家事アイデア術
<http://www.kao.co.jp/lifei/support/08/>



●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究センター**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月~金 9:00~17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 <http://www.kao.co.jp/lifei/>

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。